

週報

こひつじ

第41巻 48号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

台湾のi61教会を訪ねて

台湾の台中市にあるi61教会の訪問（一月二日〜二四日）は感動的で、ケヴィン牧師夫妻をはじめ教会の皆さんの、あまりの歓迎に戸惑うほどだった。

ケヴィン牧師ほか数名のスタッフが大津教会を訪ねてくださったのは、昨年の七月のことだが、みなぎだいたい英語ができたので、一時間あまりお互い自由に語り合えることができました。そのときは質問されるままに、大津教会がどのように始まって今に至ったかというようなことを私は語ったのだと思う。

それに感動されたのか、帰国後、ケヴィンさんからすぐにメールが届いた。

とつは耳が遠いことがある。日本語でも聞きづらいので、英語はいつそうむずかしい。しかもいろんな人の声が飛び交う会食時の会話が多くなると思われたので、聞き取れなかつたら、相手に失礼ではないかという気持ちがあったのである。でも、今回は、英語も中国語もわかる尾頭さんがいっしょに行ってくださったので助かった。

通訳を挟んで説教するのも、不安だったが、通訳者の祐希さんは完璧だった。私の日本語より、彼女の中国語のほうが、より迫力があつたと尾頭さんが言うほどだった。彼女は日本の明治大学で学んだ人で、私のメッセージの意図も的確に掴んでくれていた。

中国料理も不安だった。どちらかというと苦手だったのだ。ところが驚いた。台湾の中国料理はどれも味がマイルドで、日本人の舌に合っている。私はすっかり台湾料理のとりこになった。特に野菜料理が抜群にいい。

二、三日の滞在中、強く感じたのは台湾の人たちの親日感情だ。かつて日本が統治した時代は台湾の人たちにとってははつらいものだったと思うのだが、それにもかかわらず、親日なのはなぜなのか。そう思って調べてみると、台湾のために貢献した日本人も決して少なくなかったのだ。

台湾総督の補佐役として全体の管理を任された後藤新平は、そのひとりで、台湾の経済をよくするために、アメリカで勉強していた新渡戸稲造が適任と考え、彼を招いた。

新渡戸は農学者だった。彼はサトウキビの品種改良を試み、それが成功し、台湾をハワイに次ぐ砂糖の栽培地に変貌させるのだが、その道は平坦ではなかった。保守的な農民に新しい品種の栽培を求めるとは困難だったのだ。

こんなエピソードがある。新渡戸がある農夫に言った。

「改良種からは、こんな太いキビができるんですよ」

農夫は答えた。

「何代も前からキビを作ってきたから知っている。そんなのができるはずがない」

そう言ってなかなか採用してく

れない。

すると新渡戸は言った。

「あなたはカゴに乗ったことがありますか」

「あります」

「ではトロッコに乗ったことは」

「あります」

「では汽車は」

「ありません」

「それ、同じ乗り物でも、知らないものがあるでしょう。同じようにあなた知らない、太いキビを見せてあげるから、試験場にいらつしやい」

こうして改良種の生育状況を見せて農民を説得し、採用してもら

う。するとそれまでメートルのもの

が、三メートルのキビになり、資本を投じて工場を建て、製糖会

社を作った。その結果、サトウキビの生産において台湾は世界五大

生産地のひとつとなり、台湾の経済をうるおしたのである。

だから新渡戸の銅像が高尾に建

っているそうだ。

しかしのちに『帝国主義下の台湾』を書いた矢内原忠雄は、その後、後藤新平や新渡戸稲造のよ

うなすぐれた人物が送られること

なく、指導者たちの道義的精神は

失われ、台湾の経営は搾取政策になつてしまつたと嘆いている。

それにもかかわらず台湾の多く

の人は、日本が送つたわずかなすぐれた人物たちの業績を高く評価

し、感謝してくださっているのだと思う。

しかも親日感情は、年長者だけに

なく、若い人たちにも及んでい

る。「私のおじいさんは日本語ができた

ました」と誇りに思っている人たちに何

人も会つた。さて、私たちが訪ねた教会はそ

の名を「G1教会」というのだが、めずらしい名前かどうかという意味な

のだろうと思つていた。今回説明していただいてわかつたのだが、それはそのままイザヤ

書六一章という意味なのだそうだ。その冒頭にはこうある。

「神である主の霊が、わたしの上

たしを遣わされた。捕われ人には

解放を、囚人には釈放を告げ」(イ

ザヤ書六一の一) これはイエスについての預言の

言葉だが、まさにそこに書かれて

いることを、イエスは実現なさつたのである。

それはどんな働きか。一、貧しい者により知らせを伝えること。

二、心の傷ついた者をいやすこと。三、捕われ人や囚人に解放と釈放

を宣言することである。そして、G1教会は、以上の三

つのことを、イエスとともに行な

いたいと願つて、教会の名前とされたのだと思う。

以上の三つのことは、すべての教会が目指すべきことかと思う。

熊本にTSMCがやってきて、こう

して台湾の教会との新たな出会いが生まれた。

この出会いは、偶然ではなく、神がお与えになつたものではない

だろうか。今後、台湾の教会との交流を通

えられたらと思う。(終)

今日の礼拝

○礼拝は午前10時半から。

○教会学校は午前10時半から。

○説教は米村牧師。

○礼拝後、牧師館で長老会。

先週の礼拝

○司会は西岡潤也さん。

○G1教会(台湾)訪問の報告

は尾頭誠郎さん。

○説教はイザヤ書六一章から

G1教会の訪問から学んだこと

について語りました。

○礼拝参加者は八三名(男三〇、

女五三)、それに子どもが三名、合

わせて八六名でした。

○小堀徳廣・蘭子夫妻の長女う

ららさん夫妻(アメリカ・シアト

ル在住)、同じく孫の百合愛さんと

その友人が参加されました。

牧師のメールアドレス

***** yonemura@ja2.so-net.ne.jp *****